

提出日：令和 05 年 09 月 08 日
所 属：獣医学部 獣医学科
氏 名：平 健介 職位：教授
役 職：学長補佐（学生支援担当）

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

寄生虫病は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において発生頻度が高く重要性が高いものが多い。従って、獣医学科の学生は、特に発生頻度の高い寄生虫病については、診断・治療・予防に関する知識・技術を卒業までに身につける必要がある。獣医学科学生がこれらを修得するための教育を行うことが、獣医寄生虫学教育者の責任と考える。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
獣医寄生虫学 I	獣医学科	必修	2	140
獣医寄生虫学 II	獣医学科	必修	3	140
獣医寄生虫学実習	獣医学科	必修	3	140
獣医学概論	獣医学科	必修	1	160
総合獣医学	獣医学科	必修	6	150

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

寄生虫病の診断・治療・予防に関する知識・技術の詳細を身につけた学生が、卒業後、産業動物臨床あるいは伴侶動物臨床等において、それらの知識・技術を用いて活躍することは、畜産業の発展や食の安全安心あるいは人の心の安定等への貢献となる。これらの社会貢献の意義は高い。獣医寄生虫学教育者は正しく有用な知識・技術を学生に教授しなければならない。なお、教科書等に記載された知識や診断技術は時間とともに変化する場合が多い。従って、学生には新しい知識・技術および新しく起こり得る問題に対応できる知識や技術を教授することが必要である。獣医寄生虫学教育者は、獣医療現場における寄生虫病の発生状況および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報などを把握しているべきである。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

獣医療現場における寄生虫病の発生状況等および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報を把握することを心掛けている。前者については、国内各所から検体を集めて検査をして寄生虫を観察し、発生・感染の状況把握に努めている。また、臨床獣医師や動物の飼主とのネットワークを拡充し、現場情報の収集を心がけている。後者については、学術論文講読や国際学会参加などにより、最新情報を得る。

アクティブラーニングについての取組

寄生虫の形態および動き知ることが、寄生虫病の診断には重要である。生身（なまみ）の動く寄生虫を獣医療現場等から確保し、実習用教材には出来るだけ生身（なまみ）の教材を用い、自分の目でそれらを学生が観察するようにしている。なお、これらの検体を用いる場合は、バイオリスクについては十分に考慮し、安全に実施している。

ICT の教育への活用

寄生虫の形態および動きを知ることが、寄生虫病の診断には重要である。講義などの教材には、静止画だけでなく出来るだけ動画を用いる。また、担当講義は録画し、それらの講義動画はオンデマンドで配信するように心掛けている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） B

学生が学習したことを自分で説明する時間を講義あるいは実習の時間の中に設けている。

②学生の理解度の把握（A～C） B

講義では毎回小テストを行っている。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

講義で毎回行う小テストで良い成績をとるためには、自習が必要であることを事前に通知している。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） A

実習では、積極的に教員へ話しかけるように促している。

⑤双方向授業への工夫（A～C） A

質問や意見があればメールなどで受け付けるようにしている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験対策として、出題傾向を分析して近年重要性の高い項目を特定した。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生からの要望について、可能な限り対応しようとした。

② ①の結果はどうでしたか。

概して改善できたと思われるが、次年に同様の要望を受けることもあった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

学生からの要望は、可能な限り反映させたいと考えている。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

楽しく学んでもらいたい。生身（なまみ）の動く寄生虫を教材として用い、自分の目でそれらを学生が見つけ出し、観察するようにしている。動く寄生虫を自分で見つけた時の学生の目は輝いている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

特になし

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD 研究会に参加した。得られた情報の中で取り組むべきと考えられた事柄については、授業や実習に取り入れるようにしている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

寄生虫病あるいは寄生虫感染は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において発生頻度が高く重要性が高い。従って、国家試験出題数も寄生虫学関連問題は比較的多い。国家試験における寄生虫学関連問題について、受験時に学生が難しいと感じないような教育を行うことを念頭においている。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

特になし